

平成 29 年 10 月 12 日

最近報告された麻疹患者に関する医療機関への注意喚起

(平成 29 年 10 月 11 日現在)

現在わが国は麻疹排除状態にあり、年間報告患者数は百例前後にまで減少しております。しかし、海外には麻疹が流行している国が多く、海外からの訪問者や海外渡航者が麻疹ウイルスを国内に持ち込む事例（以下、輸入例）が散見されております。感染症発生動向調査（NESID）並びに自治体からの報道発表等の情報により、輸入例を発端に、広域で麻疹患者が発生するリスクが高まっていることが考えられましたので、情報提供をいたします。

平成 29 年 10 月 6～9 日にかけて、富山県、宮城県により麻疹症例が感染可能期間中に国内を広範囲に移動していたことが報道発表されました。

富山市報道発表

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/kisya/2017/kisya20171006.pdf>

宮城県報道発表（第 1 報） <http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/646414.pdf>

宮城県報道発表（第 2 報） <https://www.pref.miyagi.jp/release/ho20171007-1.html>

宮城県報道発表（第 3 報） <https://www.pref.miyagi.jp/release/20171009-01.html>

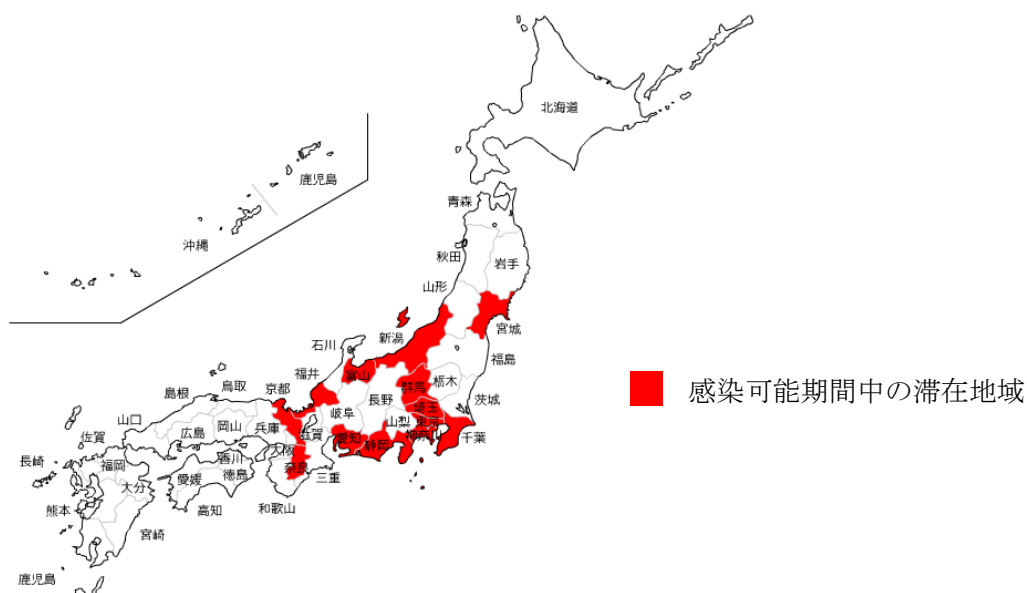
また、上記事例とは別に、9 月下旬に麻疹患者の発生が関東地方・中部地方の複数の自治体から NESID に報告されました。

1 麻疹の発症日と今後の注意点

上記症例の麻疹発症日は、9 月中旬から 10 月上旬と報告されていますので、既に感染が広域に拡大している可能性があります。医療機関においては、発熱・カタル症状・発疹等の症状を認めて受診された症例については麻疹である可能性も考慮して、渡航歴・旅行歴・麻疹含有ワクチンの接種歴を問診するとともに、感染拡大予防策の徹底をお願いします。また、医療関係者の皆様におかれましては、麻疹含有ワクチンの接種歴・麻疹罹患歴を確認し、発症予防の徹底をお願いいたします。受診する患者に対しては、症状等から麻疹が疑われる場合は、事前に電話連絡の上、受診方法や受診時間を確認してから、マスクを付けて受診するようご指導ください。

2 麻疹症例が感染可能期間中に滞在したと報告された地域

富山市、宮城県報道発表内容と NESID 登録情報（平成 29 年 9 月下旬～10 月上旬に麻疹を発症した症例の情報）により作図。



3 麻疹とは

(1)潜伏期間 10～12 日間

(2)症状等 初期症状は発熱，咳，鼻水等のような症状が見られます。数日続いた後，口の中に白い粘膜疹（コプリック斑）が現れます。その後一度体温が下がりますが，すぐに高熱となり，体に赤い発疹がはじめて，全身に広がります。重症例では肺炎や脳炎などの合併症を呈し，死亡することがあります。

(3)感染経路・感染期間 空気感染・飛沫感染・接触感染で感染します。感染可能期間は発症前日～解熱後 3 日を経過するまでとされており，学校等は出席停止になります。その中でも特に強いのは，発疹が出現する前の，発熱，咳，鼻汁，眼球結膜の充血が見られる時期とされています。発疹出現後もしばらくは感染力があります。

(4)感染力 広い場所（例：コンサートや体育館等）でも，同じ空間にいただけで感染する危険性があります。予防接種を 2 回受けていれば，ほとんどの場合，感染を予防できます。